

4. 質疑応答

Q1 東北地方ではツキノワグマによる人的被害が報告されているが、県内では人身被害がない。その違いは何に起因しているのかわかりますか？今回の研修は市街地でのクマとの遭遇ではありませんが、市内でのクマの目撃を同法無線で市民に放送しています。これにより市民の不安が高まることもあります。クマの目撃情報を市民に伝える場合、安全確保と不安軽減の両方を考慮した効果的な情報発信の方法に何かあれば教えてください。

(回答)自然保護課 斎藤氏

今回の説明の中でも東北地方との個体数と環境的な要因の違いを説明しましたが、本県では市街地への出没は抑制されている環境があると考えられます。従来から、ツキノワグマの事故というのは、ばったり遭遇するパターン、親子グマに遭遇しで母グマが子グマを守るために襲ってくるパターン、餌に執着してしまったところに人が入り込んでしまったパターンがあるといわれています。その中で、報道でもあるように、東北で起こっているような市街地への出没が頻発する要因についてはまだはっきりとはわかってはおらず、今起きていることを事後に検証し分かってくことだと思います。効果的な発信というのはなかなか難しく、現在のような状況でクマの出没の情報を出すと不安を煽るというのは仕方がないと思います。それよりも正確な情報の発信を発信していただくことが重要だと思います。例えば、南伊豆町では、クマらしき動物の目撃情報が出た際に、それは見間違えの可能性が高いといった情報についてもしっかりと情報を流していました。クマと断定できる情報なのか、クマらしきものが出たのかも正確に情報を伝えたうえで警戒を促すというところが重要だと思います。また、対策としてどこで目撃されたかというところで、登山道ならば登山者に出会わない対策をしてもらう必要があるし、人家周辺であれば、その誘引物の管理を行い、クマを寄せ付けない対策をするなど、ただ気を付けると言うのではなく、どう気をつけるのかということも情報にしてもらうとよいと考えています。

Q2 クマとの遭遇を避けるにはヒトの存在を知らせる（鈴、大声等）ことが有効と伺いましたが、一方でハチを招き寄せることに繋がるのではと不安です。（実体験有）

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

たしかにスズメバチなどは大きな音で刺激すると攻撃してくる可能性があります。ただ、クマに対して大きな音や声などでこちらから威嚇することが有効な場面というのは、100m程度離れていてクマがこちらに向かってくるときくらいです。距離が近いときに大きな音や声を出してしまっては、逆にクマを追い込んでしまい、攻撃される原因になるため、クマ対策としても適当ではありません。鈴については、持ち歩いていたためにハチに攻撃されたという話は聞いたことがありません。

Q3 熊はペットボトルのペコペコ音は嫌いですか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

具体的に試したことではないですが、熊に知らせる音としては出している方がよいと思います。何かを鳴らしながら、というのは有効だと思います。

令和7年11月12日 「熊との遭遇への対策安全講習会」における質疑応答集

Q4 熊の移動距離はかなり広範囲だと思いましたが、縄張りはあるのでしょうか。

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

熊は縄張りをもつ動物ではないです。

ただ一度に餌がある場所に何頭も集まったという事例はあります。

Q5 頭数が多く毎回処理に困っています。行政に問い合わせれば、捕獲個体の処分先を教えていただることは可能ですか？あくまでも捕獲者が受け入れ先を探すしかないでしょうか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

捕獲したニホンジカなどの利用や処分方法、それによって得られる、あるいは処分に掛かる費用などについては、捕獲の目的（狩猟か被害防止）や捕獲場所やお住いのある市町、施設によって異なることから、それぞれ照会をしていただく必要があります。

Q6 縄張りは無いとのことですが、雄雌で威嚇等の行動パターンは違いますか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

基本的には雄雌の行動パターンは同じですが、雌は子供がいるだけで気が立って威嚇してくることがあります特に注意してもらいたいです。

Q7 くくり罠に掛ったシカの捕食について、死骸を食べるのではなく、生きたシカをクマが捕食するという事例は多いのでしょうか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

もともと熊は狩りが得意ではありませんが、捕獲され繋がれた状態の鹿などを捕食する事例は出ています。鹿に限らずリードにつながれた犬が襲われたというのも全国レベルでは出ており、熊は人間や動物の状態をよく見ています。といった意味からも罠にかかった鹿というのは捕食されやすく、学習した熊はまたそれを狙うようになってしまいます。

Q8 山中の現場作業の昼休みにカップラーメンを食べることが多いが、カップラーメンの様な匂いも熊は近寄ってくるでしょうか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

残飯やゴミの処理が杜撰な地域や場所などで人工的な食べ物の味を覚えてしまったクマがいる場合は、近寄ってくる可能性がありますが、通常は知らないか、警戒心が勝るため寄ってくることはありません。

Q9 山に入るときの服装は目立つ色のほうがいいでしょうか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

クマは色覚がヒトよりも弱いようですが、青色や濃淡のはっきりした色は識別しやすく、また動体視力はいい（動いているものはよく見える）と言われています。ただし、狩猟期間中の狩猟区域などでは、シカのお尻の色と同じ白色の物は銃猟者に誤って撃たれることがないようになるべく身に着けないようにしてください。

令和7年11月12日 「熊との遭遇への対策安全講習会」における質疑応答集

Q10 斎藤様のお話しに、こどもを対象とした普及啓発活動を予定されているとありました。学びの機会を設けたらご協力いただけるでしょうか。

(回答)自然保護課 斎藤氏

まだ具体的な動きではありませんが、今後、子ども世代への普及も含め、クマの正しい知識、野生動物との共生について考える機会を創出してまいりたいと考えています。学びの機会について企画等ありましたら、御相談いただきたいと思います。

Q11 犬と歩中に遭遇した際注意することはありますか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

繋いで置くことなどがなければ問題ありません。

(リードで繋がれた犬やワナに掛かったシカなどは襲われて食べられた事例があります。)

Q12 携帯用の蚊取り線香のような、臭いを出して山を歩くというのは忌避効果が期待できますでしょうか。

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

臭いについては、確実に忌避効果がある臭いなどはわかっていないため、期待できないと思っていただいた方がよいです。一方で、人工的な化学成分「エステル類」、ベンキやワックスなどの匂いはクマが好むといわれています。

Q13 クマに覆いかぶされた時、顔が上空を向いていた時、ナイフで首を攻撃して身を守ることが有効でしょうか。大千軒岳ではそれで助かったと聞いています。脂肪層が一番薄いと聞いており、刃渡り 10 cm程度はあった方が良いと考えています。

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

反撃をする場合は、上半身の中心線上の後頭部から背骨にかけてのところか、もしくは口を開けた内側を前から棒状の尖ったものなどで突くなどの攻撃により助かった事例があります。

Q14 先ほど WEB の接続不良により熊との距離が近い時の対応②の説明を省かれたかと思います。可能であれば再度説明をいただきたいです。

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

突進してきても、実際にはクマも怖くて威嚇行動としていることも多いため、大声を出したり走り去ろうとして興奮させないように、ゆっくりと後ずさりしながらその場を後退することが重要です。

Q15 ブナ林等、餌となり得る樹木の病害虫による枯死は静岡においてありますでしょうか。

そもそも静岡では人工林が多いとの話ではありますが

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

ミズナラなどのドングリがなる木を枯らしてしまうナラ枯れ病が県内でも発生しています。

参考) 県内のナラ枯れ被害分布

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=16CgmlqskUDBtDlHNHMC8OacK-TfT8w0q&ll=35.00089305700898%2C138.25851595&z=10>

令和7年11月12日 「熊との遭遇への対策安全講習会」における質疑応答集

Q16 出没状況を確認するには、どのようなサイトを見ればよいのでしょうか。また、確認した場合は必ず関係機関などに報告する必要がありますか。

(回答)自然保護課 斎藤氏

静岡県のホームページでクマの出没マップを公開しています。見間違の可能性がある情報も含まれてはいますが、参考にしていただきたいと思います。また、クマを目撃したら、市町の担当部署にまずは御連絡をお願いします。

Q17 熊を見かけたら、作業の継続の如何についてどう判断したらよいか？

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

一概に何が正しいのかはその都度の判断であると思うが、そこに熊がいるという事は何かしらの原因があるのであって、なるべくならばその原因も踏まえしばらく作業を回避する必要もあるかもしれません。

Q18 安全な熊スプレーを選ぶには何を基準にしたら良いですか？

海外製は噴射の距離や時間が短いといううわさもあります。

(回答)森林・林業研究センター 大橋氏

これについては、知床などで実績のあるものとして講習の中で紹介していますが、それ以外のものについては、海外での報告事例などを確認したり、噴射する能力などをしっかりとチェックする必要があると思います。